「安心・安全」をコントロール

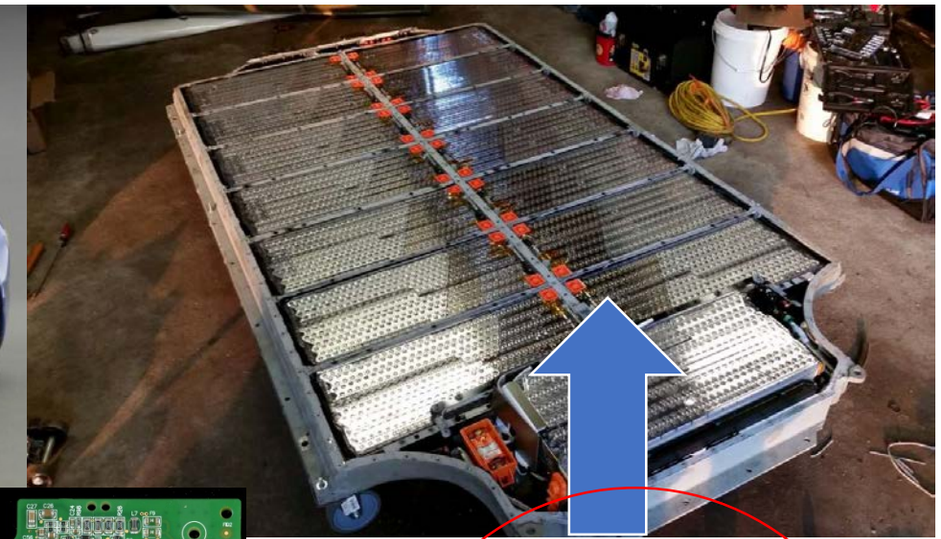
リチウムイオン蓄電池
“HUGシリーズ”

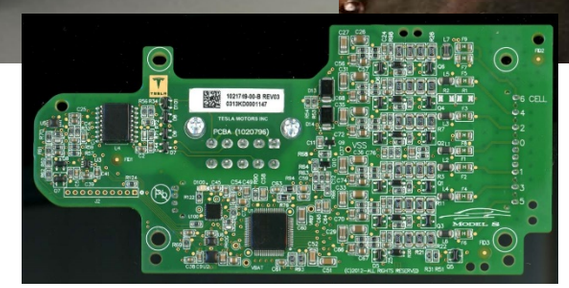
持ち運びが可能な400W～メガソーラー向け
100KW以上まで

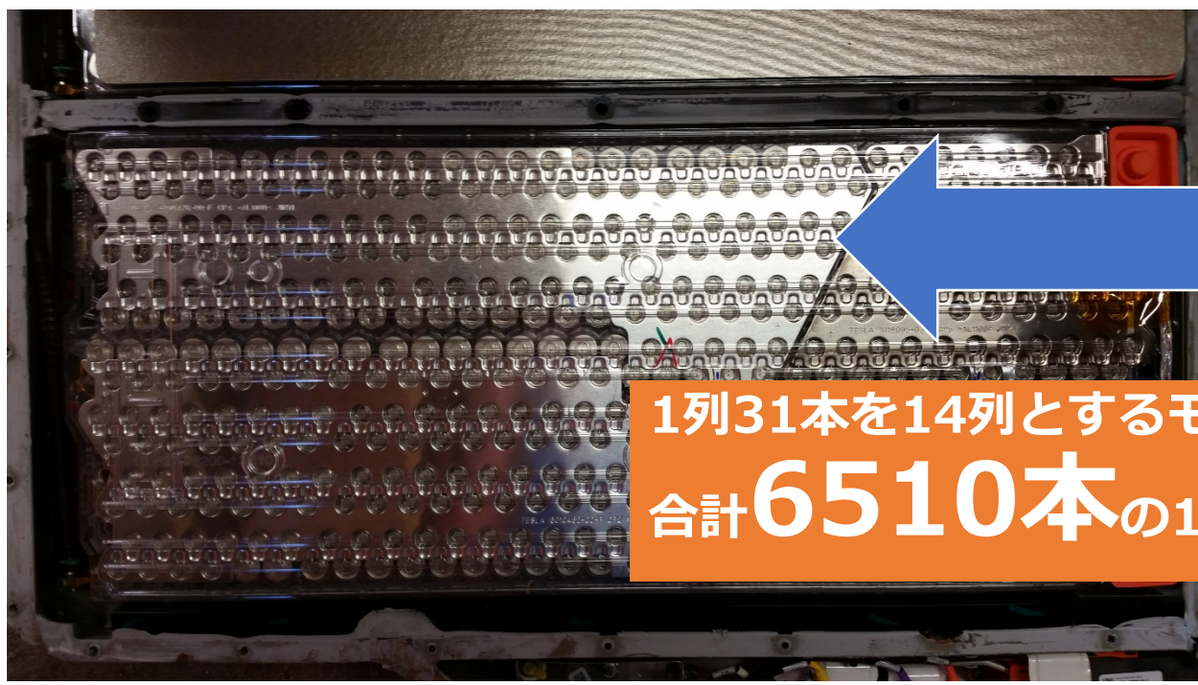
使用想定に応じて選べる

豊富なラインナップ。

TESLAの最新型車両には18650型リチウムイオン電池が使用







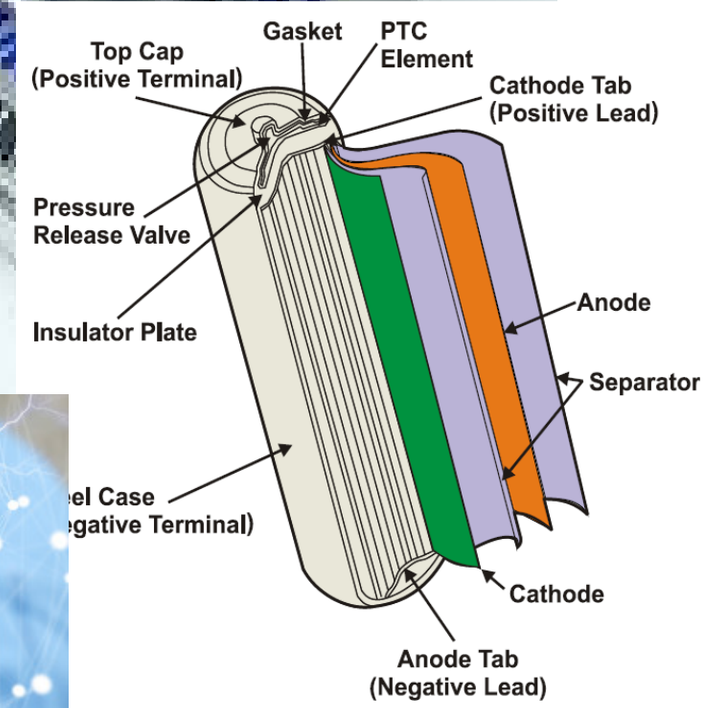
1列31本を14列とするモジュールが15個、
合計6510本の18650型電池が使用されています

テスラモデルSには、パナソニック製18650型リチウムイオンバッテリーが数千個積まれており、最大で85Kwhという大容量を実現しています。リチウムイオン電池は、単3乾電池を一回り大きくしたような形状です。

18650型電池は、ノートパソコンや電気自転車、その他様々なバッテリーとして使われている汎用性の高いもので、韓国や中国、台湾など様々な国の多数のメーカーが製造している電池です。
当社では、サムソン製18650型電池を選択しております。

HUGはTESLAに使用されている同型のリチウムイオン電池を使用

SAMSUNG
リチウム
イオン電池
18650



HUGのリチウムイオン電池 VS Panasonic製のリチウムイオン電池性能比較

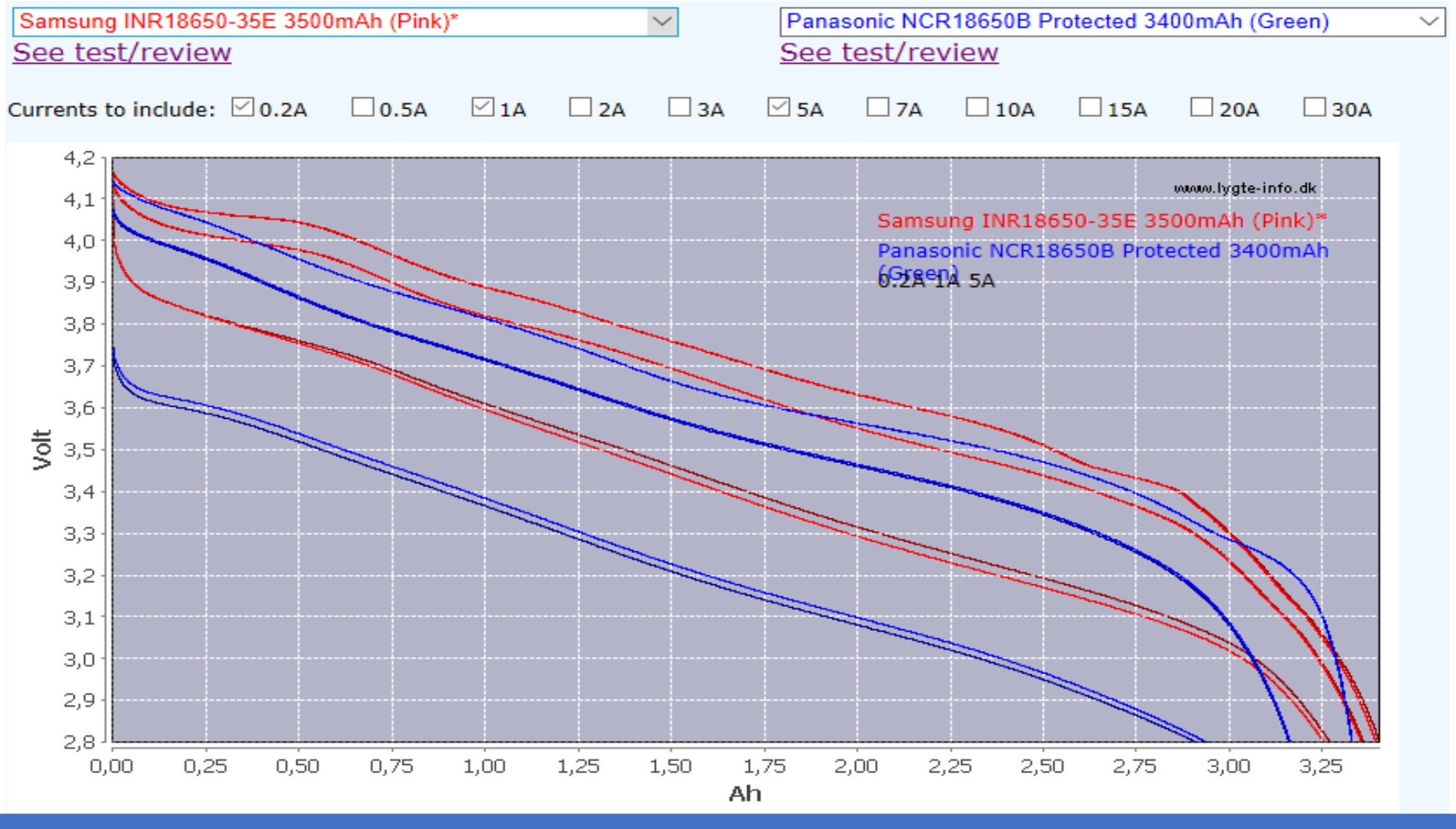
SAMSUNG

Panasonic
ideas for life

赤線REDLINE

VS
性能比較

青線BLUELINE



Panasonic製の18650リチウムイオン電池に比べてSAMSUNG製が上回っていることが分かる。

HUG400

防災非常用蓄電池

マンション防災センター、病院、学校、オフィス、
パーソナルユースに最適。

災害用ドローンのためのポータブルバッテリー

詳しく

HUG3200

電力の自給自足を。

いざというときも、
職場・自宅のライフラインを守ります。

[redacted]

コンパクトなのに、
高出力、大容量。

安全性の高い、リチウムイオンバッテリー搭載。
設置工事不要・軽量なので移動も楽々（※）。
高出力・大容量を実現しながら、3kWhクラスでは
業界最小のサイズです。

※ソーラーシステムと接続時は接続工事必要です

HUG15KW

HUG6500

HUG8500

HUG12000

HUG15000

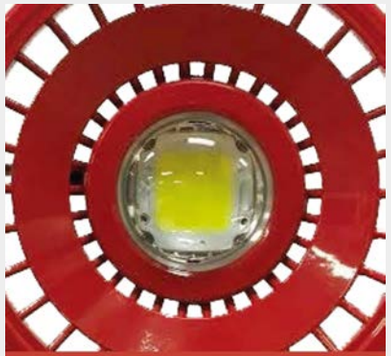
HUG100KW以上

防災非常用LED照明 HUG20はLi-ion batteryを灯具背面に内蔵し、コンパクト化を実現。20Wの消費電力で明るさは既存水銀灯100W以上の明るさを確保でき、連続点灯時間は満充電時間約11時間の長時間です。

HUG20

リチウムイオンバッテリー搭載LED照明

もうガレージやアウトドアで、
電源を探し回る必要はありません。
もしもの時にも使えるマストギアを、
あなたの身近に。



ワンコアレンズでまぶしくない

連続点灯時間は約11時間

リチウムバッテリー内蔵で持ち運び可能

HUG KM

ZETTA

iPhone7なら、約4回フル充電できる大容量。

もう、出先で困ることがありません。

高品質のリチウムイオン電池を搭載、サイクル充電回数は500回以上。入力電流は2A、出力電流には合計1.4A + 2Aの2系統で急速充電。ほとんどのUSB充電ポート付きの電子機器に適用できます。充放電を防ぐための保護機能付。電池残量を一目で確認できるLEDインジケーター付き。

DRONE

「防災都市・日本」。現在多くの地方自治体や警察、消防などが連携して災害時のドローン利用の実験やドローンを利用した高速道路やマンションなどの経年劣化の調査が進んでいます。しかし、ドローンはその飛行距離と飛行時間があまりにも短い為、電気の確保に問題が残っていました。リチウムイオン電池を採用したHUGシリーズは、軽量で鉛電池に比べて大幅にポータビリティー性能を向上しました。

Droneimes

産経新聞社ドローンタイムズ記事

東京都あきる野市がドローンを使った救助救出の訓練を実施

11月19日。東京都あきる野市は、同市立の御堂中学校の校庭で、ドローンを用いた救助救出訓練を実施した。株式会社スカイシーカー(本社:東京都千代田区、代表取締役:佐々木政聡)のパイロットがサポートを行い、訓練メニューは一般社団法人ドローン安全推進協議会(本部:東京都中央区、代表理事:井上幸彦)が作成した。

災害時に山奥や電源の切断された地域でも、ドローンのバッテリーを充電できるように、プライムスターの蓄電池HUG400も展示していた。さらに、ドローンの安全な活用についた啓発活動を行い、ドローンの活用を検討している海上保安庁もブース出展した。

Sky Seeker

校
学
中

Sky Seeker

産経新聞社ドローンタイムズ記事

ドローンによる害獣調査や災害対応などのソリューションを提供する株式会社スカイシーカー（東京都千代田区）が、12月７日、８日の２日間にわたり、第１回目となる産業用ドローン操縦者育成プログラム「Sky Camp」を群馬県館林市と邑楽郡で開催した。
Sky Campのテント内で活躍したプライムスターの蓄電池とLED照明。右はHUG３２００、イスの上がHUG４００、その手前はLED照明のHUG２０。
　Sky Campの行われた板倉町民グランドには、講習会のためにテントが張られ、中では講習に使うドローン用のバッテリーやタブレットの充電だけでなく、講習参加者に飲んでもらう温かい飲み物を作る電気ポットや電気ストーブまで用意されていた。当然、グラウンドに電源などは無いためこれら全てはプライムスターの蓄電池「HUG」で供給された。
…　12月の渡良瀬遊水池脇のグラウンドの冷え込みは凄まじく、日没に向かって気温は急降下。参加者は体が冷えるとテントに入り、暖まると講習に戻っていった。
　プライムスターが開発した蓄電池「HUG」シリーズだが、今回スカイシーカーのスタッフは２機種を用意してきた。
　メインは「HUG３２００」で電気ストーブから大型ドローンのQS８とMatrice２１０RTKのバッテリー充電に使われた。バッテリー容量３２００Wで出力電力は１５００W、午後１時から日没後まで稼働し続けた。
　サブで活躍したのはポータビリティな「HUG４００」で、タブレット端末などの充電に使われた。バッテリー容量は３９０Wで出力電力は３００Wで、もちろんドローンバッテリーの充電にも問題は無い。　日没後のテント内では、照明として防災非常用LED照明「HUG２０」が使われた。漆黒に覆われ夜間飛行訓練がおこなれた日没後のグラウンドで、テントだけが明るく浮かび上がり、ほっとさせられた。水銀灯１００W以上の明るさがあり、約１１時間の長時間点灯が可能となっている。夜間のトンネル工事や電気の落ちた被災地などで使うと効果的な照明と感じた。
　これらの蓄電池、照明はプライムスターが開発、製造し、スカイシーカーが販売を扱う。

Sky Seeker

Sky Seeker

産経新聞社ドローンタイムズ記事

【橋梁・トンネル技術展】
社会問題にドローン活用を提供するスカイシーカーと、ドローン用蓄電池のプライム・スターがタッグ

ドローンによる様々なソリューションを提供する株式会社スカイシーカー（東京都千代田区）がプライム・スター株式会社（東京都港区）のドローン用蓄電池を販売、今回両社は共同で出展を行った。

待望のドローン用蓄電池を提案するプライム・スター

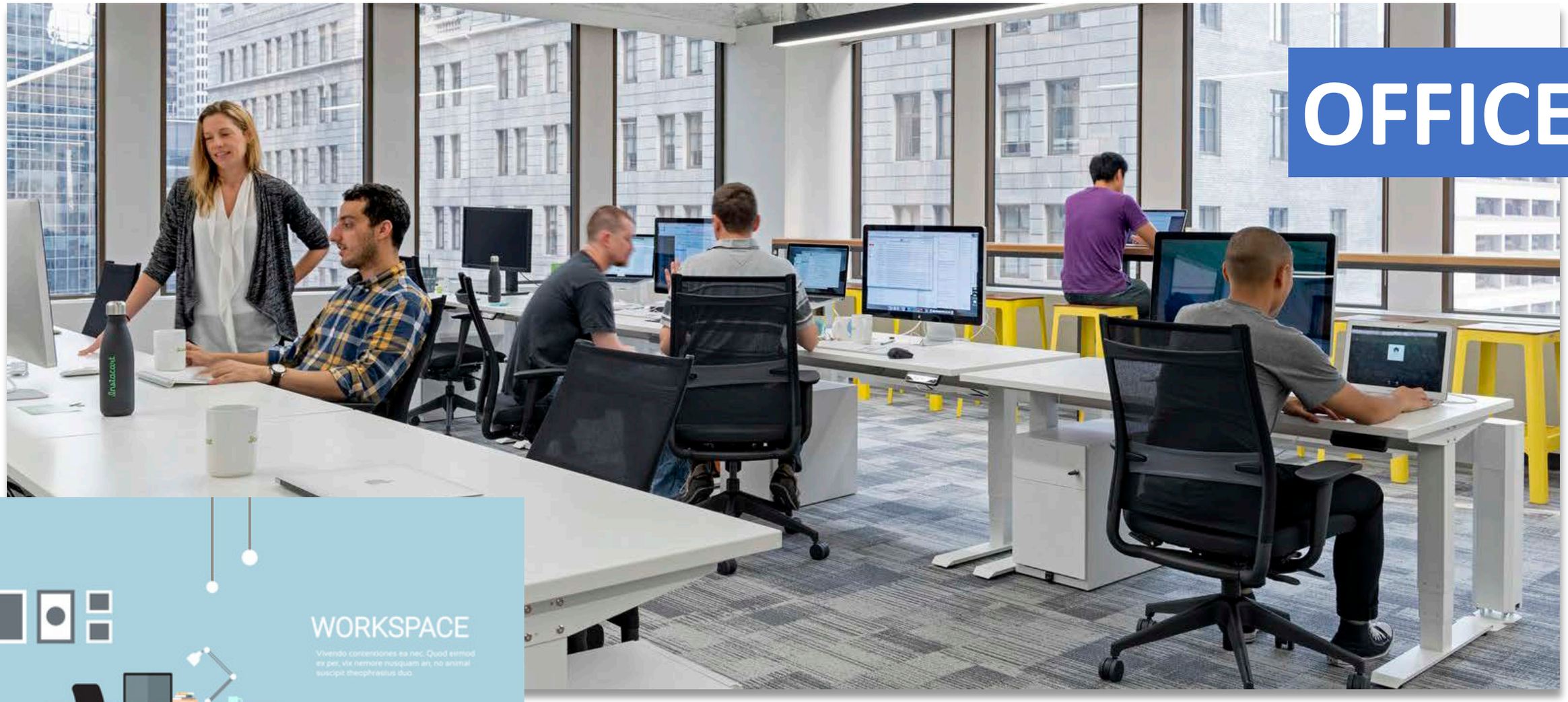
災害用蓄電池の開発と販売を手がけるプライム・スターは、多くのドローン事業者が悩んでいる野外でのバッテリーの充電に同社の蓄電池HUGシリーズをドローン用に使えないかとスカイシーカーに提案、実験を行ってきた。ドローンのバッテリー充電だけでなくパソコンにも使えることが分かりスカイシーカーがドローン用蓄電池として販売することになった。現在はHUG400とHUG3200をドローン用に販売している。他にもHUG２０という防災非常用LED照明も扱い、今回はトンネル内など暗所での作業用照明として提案している。

SOLAR POWER PLANT

2019年に固定買取制度が満期を迎える数は2019年だけで５６万台、以後年間１５万～３０万台が毎年満期を迎えます。つまり、蓄電池に太陽光発電所で生まれてくる余剰電力を充電して自給自足するZEHが注目されています。蓄電池を設置することでの「全量自家消費」時代が本格的に到来するのです。

こちらは工事が必要です。

OFFICE



オフィスではBCP（事業継続計画）マネージメントやUPS対策、ピークカットなどに加えて防災に対する備えが必修条件となってまいりました。

HOSPITAL

病院など医療機関では、電気は「灯り」だけではなく、まさに「ライフライン」です。非常用の蓄電池はBCP（事業継続計画）対策の中心となる設備です。（HUGシリーズは医療用器具にはご利用できません。）

SCHOOL

大学など学校施設は、災害時は避難場所指定を受けている場所も多く、たくさんの避難民の安全の確保が求められます。
水・食料・電気の確保が最大の目標です。夜間静かな蓄電池は、発電機に比べると扱いが簡単で、保管時もガソリンなどの常備が不要で安全です。

HOTEL

ホテルなど公共施設では地震や災害時にお客様の安心感を
満たすことで集客の増加が期待できます。
蓄電池の利用方法は各階配備や貸出が想定されます。
もちろん、スマホやPCの利用も可能で、ライフスタイルに
合わせた宿泊者の利用が可能です。

FAMILY

家庭での一番大きな需要は停電時、冷蔵庫などに対する非常用電源の確保です。もちろん災害時の非常用にも最適です。冷蔵庫なら32時間程度、対応可能です。
現在は太陽光パネルなどによる発電や売電の受け皿として電気を貯める工夫が進みつつあります。

APARTMENT

マンションでは、防災センター設備として常設が進んでいます。また、災害時の入居者の安全確保を目的に、また入居者募集に有利な条件のひとつとして蓄電池の常備が進んでいます。人口減の中、「安全・安心マンション」と言う新しい入居条件ステータスの誕生です。

STATION

マルス端末

電鉄各社の駅等では、災害時のBCP（事業継続計画）対策として、取り残されたお客様の駅外への開放に必要な出改札設備のマルス端末のバックアップや踏切の開閉など非常時のコンプライアンス対策として導入。

GOVERNMENT

市役所などの施設は、災害時は避難場所指定を受けている場所も多く、たくさんの避難民の安全の確保が求められます。
水・食料・電気の確保が最大の目標です。夜間静かな蓄電池は、発電機に比べると扱いが簡単で、保管時もガソリンなどの常備が不要で安全です。